

ノンリコースローン実行における 借り手側の業務課題と AI活用の論点

～ 実務経験に基づく業務プロセス整理とAIエージェント活用の考え方 ～

SHR株式会社 靱倉 勝也

<https://s-fp.com/> ©2026 SHR株式会社

なぜ借り手側に実務課題が集中するのか？

Problem

大型アセット（太陽光発電所・データセンター等）のノンリコースローンは、貸し手（金融機関）側の審査体制は整っている一方、借り手側の実務対応が追いつかないケースが多く見られます。



リソース不足

ファイナンス実行と月次決算・四半期開示が同時期に重なり、社内の財務・経理担当者が業務過多に陥る。専任担当者を置けない規模の会社では特に深刻。



属人化リスク

ノンリコースローンの実行経験者は社内に1~2名しかおらず、その担当者の退職・異動でノウハウが失われる。次案件で同じ作業をゼロから繰り返す非効率も発生。



標準化の遅れ

証憑管理・事業計画・契約書管理がバラバラのツール・フォルダで運用され、金融機関からの追加資料要求への対応に多大な時間を要する。AI化への移行も進まない。

借り手側の業務プロセス 5つの整理

ノンリコースローン実行において、借り手側が担うべき業務を以下の5領域に整理します。



※⑤の関係者調整は高度なコミュニケーション・判断を要するためAI代替は困難。①の物件選定は経営判断領域。

業務全体のうち、以下の2領域は「人手に頼り続けること」がリスクとなる最重要AI化対象です。

A

②×④の融合 証憑・エビデンスの AI管理

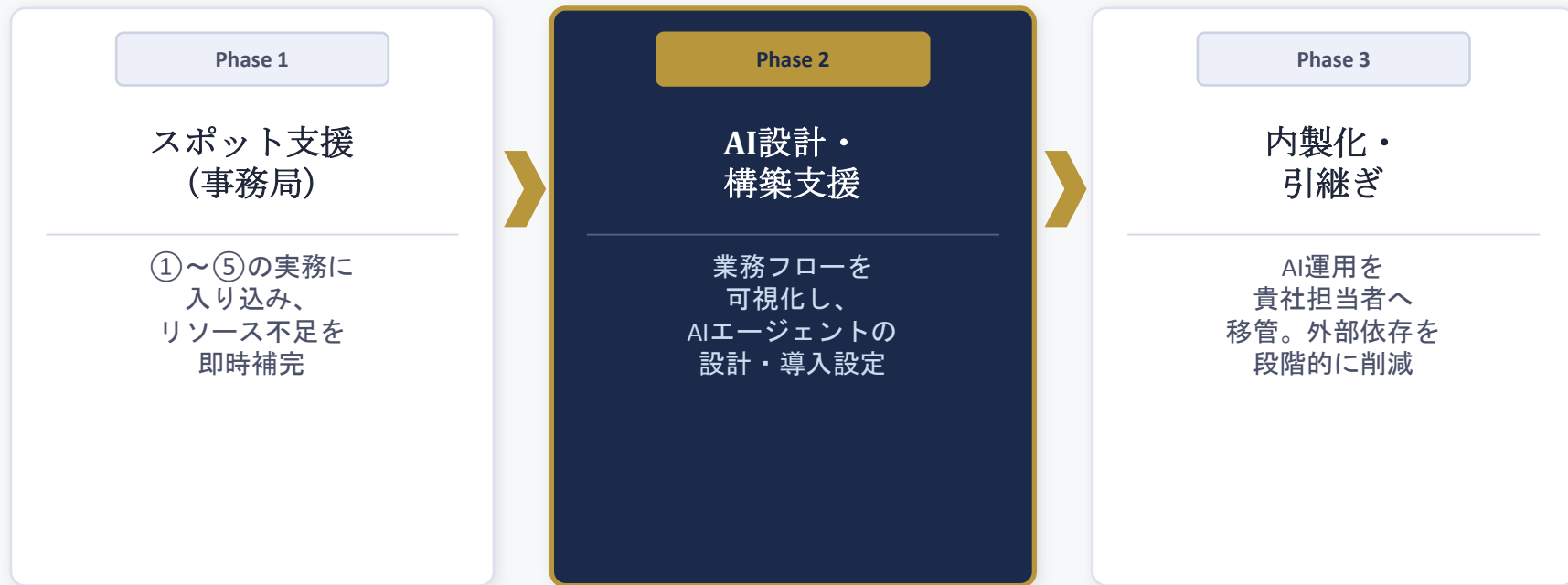
- ・ 物件ごとに分散する証憑（登記・測量・許認可等）と契約書を一元管理
- ・ 金融機関からの追加資料要求に即時対応できる構造化
- ・ 版管理・更新履歴の自動記録でリスク抽出を効率化
- ・ リーガルAI連携による契約書レビューの省力化

B

③×④の融合 財務モデルと ドキュメントの連動

- ・ 事業計画（財務モデル）の前提変更が契約書・説明資料に自動反映
- ・ 金融機関向けシナリオ分析を即時出力できる体制整備
- ・ コスト試算の精度向上と更新作業の大幅省力化
- ・ 次案件以降の内製化を支える標準財務モデルの構築

SHRは「今の案件を止めない実務支援」と「次案件から内製化できるAI構築」を同時並行で提供します。



🔒 AIエージェントはクライアント側でのご契約・費用負担。弊社はクライアント指定環境またはシンクライアントPCにて対応し、セキュリティ・守秘義務に配慮した上で導入・設定支援を担います。

まとめ — 本ホワイトペーパーのポイント

- 1 借り手側には「リソース不足・属人化・標準化の遅れ」という3つの構造的課題がある
- 2 業務プロセスは①～⑤の5領域に整理でき、うち②③④がAIエージェント化の優先対象
- 3 特に「②×④：証憑AI管理」と「③×④：財務モデル連動」が最重要の2領域
- 4 SHRは事務局支援（Phase 1）とAI構築支援（Phase 2）を同時並行で提供し、内製化（Phase 3）まで伴走
- 5 AIはクライアント様側でのご契約・費用の負担とさせて頂き、弊社は指定環境での安全な導入支援役を担います

資料ダウンロード・お問い合わせ・面談のご依頼： TEL 080-9988-9238 ／ shr-momikura@s-fp.com ／ <https://s-fp.com/#dl01>